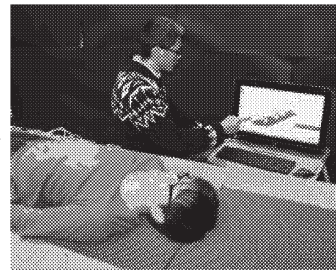


信州大学や長野県テクノ財団などからなる感性応用計測研究会は25日、信州大学繊維学部の上田キャンパスで就寝時の姿勢をリアル



バナを使い、沈み込みや体圧を計測できる

## 寝姿勢、リアルタイム計測

### 信大など 寝具開発に活用

タイムで計測する装置を開発したと発表した。今後は桜道ふとん店（静岡県御殿場市）と連携し、寝姿勢のデータを集めて寝心地の良い寝具の開発に生かす考えだ。

信州大学の吉田宏昭准教授らが開発した寝姿勢計測装置は、桜道ふとん店の布団の堅さを基準にバナを敷き詰め、バナが沈んだ深さによって布団の沈み込みを計測できる。従来の計測器では体にかかる体圧を平面的に計測することはできた

が、布団の沈み込みまで測定できなかった。

寝姿勢計測装置はスキー用品などの製造を手掛けるエヌ・ウェーブ（白馬村）の圧力計測装置の技術を用いた。今後は桜道ふとん店の来店客のデータを取り、今秋をメドにオーダーメイドの寝具を販売する。

寝姿勢が悪い場合は腰などに負担がかかり、腰を痛める要因にもなる。吉田准教授は「人生の3分の1を過ごす布団をもっと意識して選んでほしい」と話す。

日本経済新聞長野県版 20150326